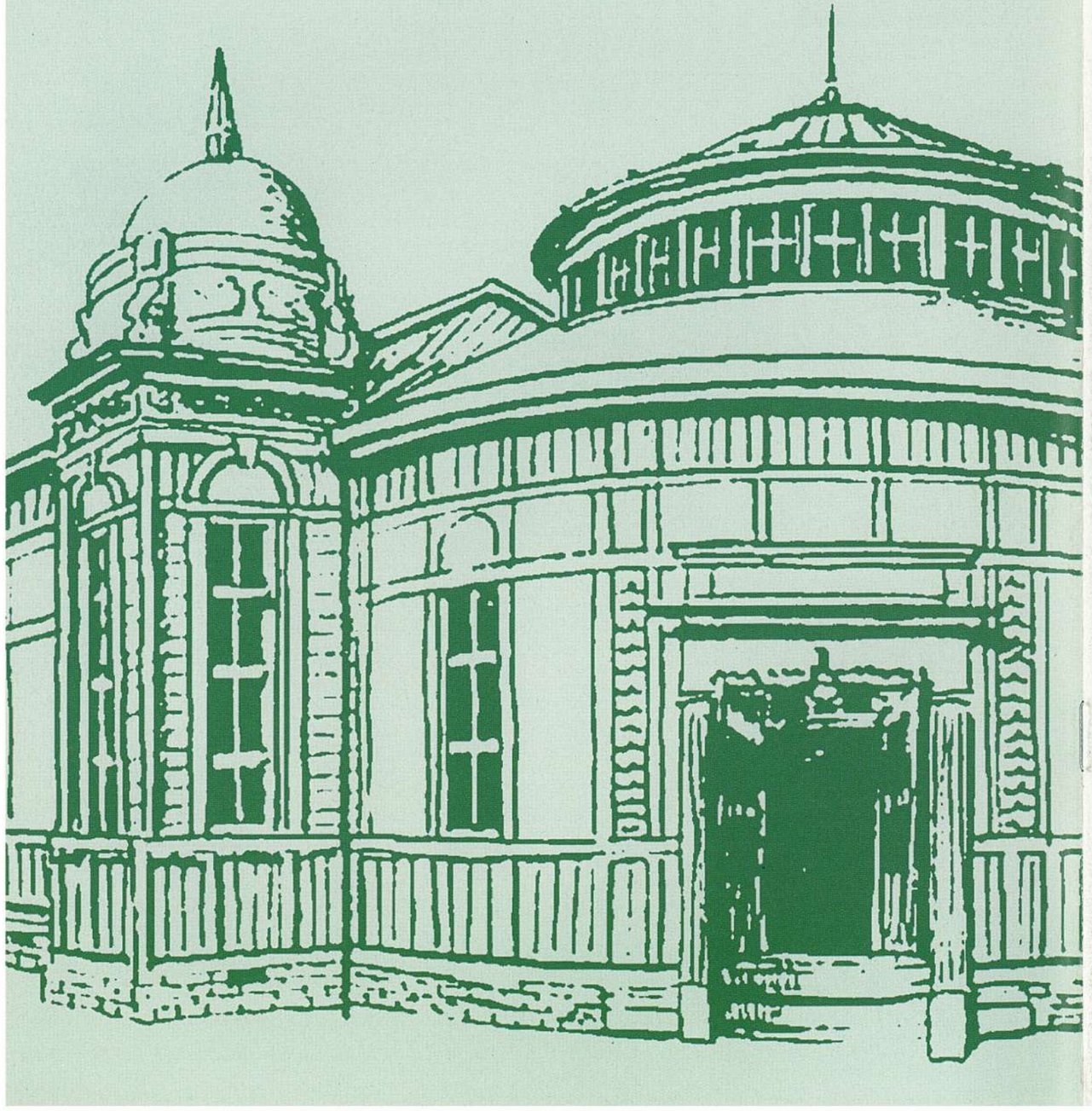
MEIJI-MURA

明治村だより

Vol.47 2007 Spring

高田小熊写真館　2
明治村花暦　6
多彩な各種「建物案内」のご紹介　7
春の催しもの　8
A La Meiji-mura　10



平成19年3月1日発行

「明治村だより」第47号（平成19年 春）

発　行　博物館明治村
〒484-0000　愛知県犬山市内山一番地
電話（0568）67-0314
http://www.meijimura.com

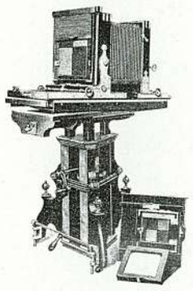
製　作　大日本印刷株式会社

『明治村 だより』　第48号発行のお知らせ
発行時期　平成19年7月初旬（予定）
申込方法　「明治村だより」第48号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙　「宇治山田郵便局」
旧所在地　三重県伊勢市豊川町
建築年代　明治42年（1909）

高田小熊写真館

昭和五十七年に明治村へ移築され、公開されてきた高田小熊写真館が、この度、最も華やかな店に変貌した昭和初年の状況に復原整備され、三月から新たに公開されます。



三月十日公開

明治の写真技師 小熊和助

小熊和助

小熊写真館の創業者、小熊和助は新潟県柏崎町（現在の柏崎市）に小熊弥三右衛門の次男として、明治十四（一八八一）年三月に誕生。明治三十一年、和助が十七歳の時に、兄弥一郎が柏崎で写真館を開業したことが、和助と写真とを結びつける第一歩となりました。兄のもとで修業を積んでいた和助は明治三十九年、東京・淡路町の江木写真館の研修生として、当時日本一の写真技師との誉れ高く「日本にあれだけ腕の利く技師は二人とあるまい」と評された技師長・渡辺進氏のもとで修業を始めました。約二年の修業ののち、明治四十一（一九〇八）年九月二十日、故郷の柏崎ではなく、隣接した高田町（後の高田市、現在の上越市）で小熊写真館を開業しました。

和助はオーストリア陸軍のレルヒ少佐が日本へ初めてスキーを伝えた様子をカメラに収めたほか、新潟県写真師組合や日本写真文化協会の役員を歴任し、昭和四十四年、八十八歳で天寿を全うしました。

日本に初めてスキーを伝えたテオドール・フォン・レルヒ（Theodor von Lerch）少佐（右）

高田の町と小熊写真館

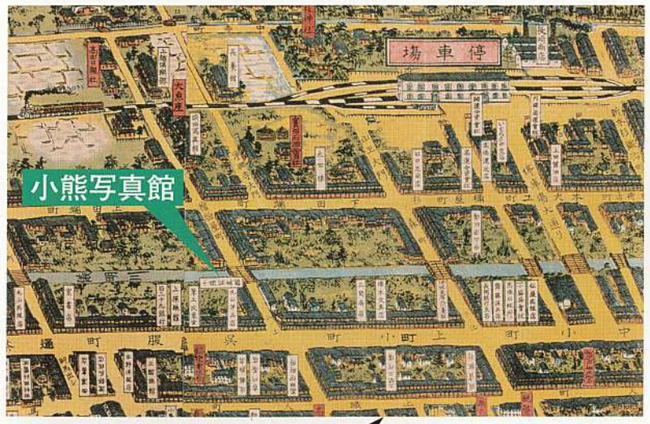
和助が開業するにあたって、なぜ高田を選んだのか。

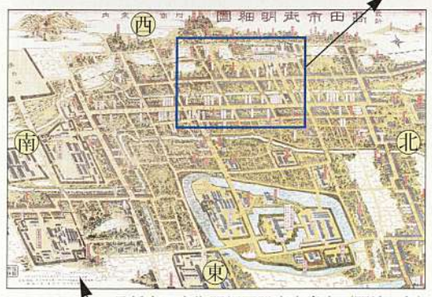
和助が写真館を開業した明治四十一年の高田の町は、町の歴史においても非常に重要な年でありました。

明治四十年頃の高田町は上越市史によれば、「近世に榊原家十五万石の城下町として栄えた高田町であったが、明治維新後は廃藩置県や高田県の廃止により地方政治の中心地としての地位を失った。さらに明治三十年の水害や日露戦争時の負担により町の財政は窮迫し、寂れゆく旧城下町という状態にあった。」と記されています。

明治四十年一月、仙台に置かれていた第十三師団が信越地域に移転するという情報がもたらされると、当時の町長が早速上京し、衰退の一途をたどる町勢挽回を企図し、陸軍省や参謀本部などに師団誘致を積極的に働きかけてきたと記録されています。第十三師団が高田を衛戍地とすることが決まったのが、同年九月。第十三師団のほか、歩兵第二十六旅団司令部、歩兵第五十八連隊、騎兵第十七連隊、野砲兵第十九連隊、輜重兵第十三大隊が同時に配備され、旧高田城内本丸に師団司令部や旅団司令部などが配置されることになりました。

師団の高田移転を機に、洋服屋や写真屋、靴屋、旅館などの多くの商店が新たに高田に誕生しました。和助は前述したように、高田へ移り住む直前まで、東京・淡路町の江木写真館で修業をし、開業にあたっての場所探し、心構えなどに関しても指導を受けていたようで、師団が移転してくる高田には大きなビジネスチャンスがあるとの助言を得て、高田で開業することを決めたといわれています。





最新高田市街明細図附商店案内（明治42年）

当時は、誰彼となくカメラを持ち、気軽に写真を撮ることができる現代とは異なり、写真館は高価な機材が必要で、撮影の技術を身につけるのも非常に困難な時代でした。また、市民の側からすると写真は高価で、一般市民が気軽に撮影を依頼しに来るとは想定できません。和助が修業した江木写真館の記録にも「多くは華族や上流階級の顧客が多かった」と記されており、記録写真などの需要が多い「軍」をターゲットとし、高田での開業に踏み切ったのではないかと推測されます。

小熊写真館開業前後の様子は地元新聞（高田新聞）に掲載された広告から知ることができます。

八月二十八日から
家屋新築中
高田呉服区二の辻橋詰　小熊写真館

という広告を十回ほど掲載し、開業が目前に迫った、九月十六日からは

新築落成　近々開業
高田呉服区二の辻橋詰　小熊写真館

という広告を連日掲載、さらに開業後は

新築落成　写真開業
九月廿日ヨリ十月廿日迄開業御披露ノ為メ
白金写真専門トシテ大割引
高田町呉服区二の辻通橋詰　小熊写真館

という広告を開業割引期間が終了する十月二十日まで連日掲載しています。

小熊写真館の建物について

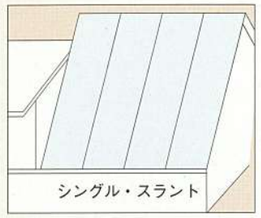
小熊写真館は信越線高田駅の東南にあたる呉服町にあり、東西に走る通りに面しています。玄関は北面し、玄関入って正面の洋室が、応接室兼写真の受付です。写真の出来上がりを受け取るのも、この部屋だったといわれています。受付を済ませ、二階のスタジオへ上がります。

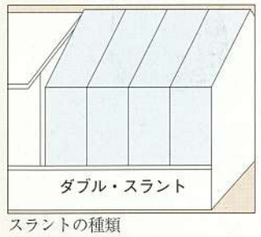
スタジオの屋根は外観からもわかる通り、北側がガ

明治村の高田小熊写真館

高田小熊写真館の2階

ラス屋根になっています。これはフラッシュを用いた撮影が容易ではなかった頃、柔らかな北側の自然光を取り入れるためのものです。写真館などに設置されている採光用の屋根や窓を欧米ではskylightと呼びますが、日本ではスラント（slant）と呼び習わしており（スラントは傾斜、斜面の意味）、屋根だけにガラスが入っているものをシングル・スラント、屋根と側面の一部にガラスが入っているものをダブル・スラントと呼んでいます（上図参照）。当時の教本にはシングルにするかダブルにするかは、一長一短があり、個人の好みでするのもよい、またスタジオの広さで決めるのもよいと書かれています。また、スラントには黒・白の幕が張られ、その日の光量・被写体に応じて、幕を操作しました。





スラントの種類

二階の支度室（玄関の真上）で鏡を見ながら髪形や化粧を直し、豪華な洋館の室内、お座敷等を描いた「書割」と呼ばれる背景の前でポーズをとります。二階での撮影が終了すると、撮影されたフィルムや乾板は階下の暗室に持ち込まれ、現像・定着・焼付けなどの作業が行われました。その後、修整が行われました。

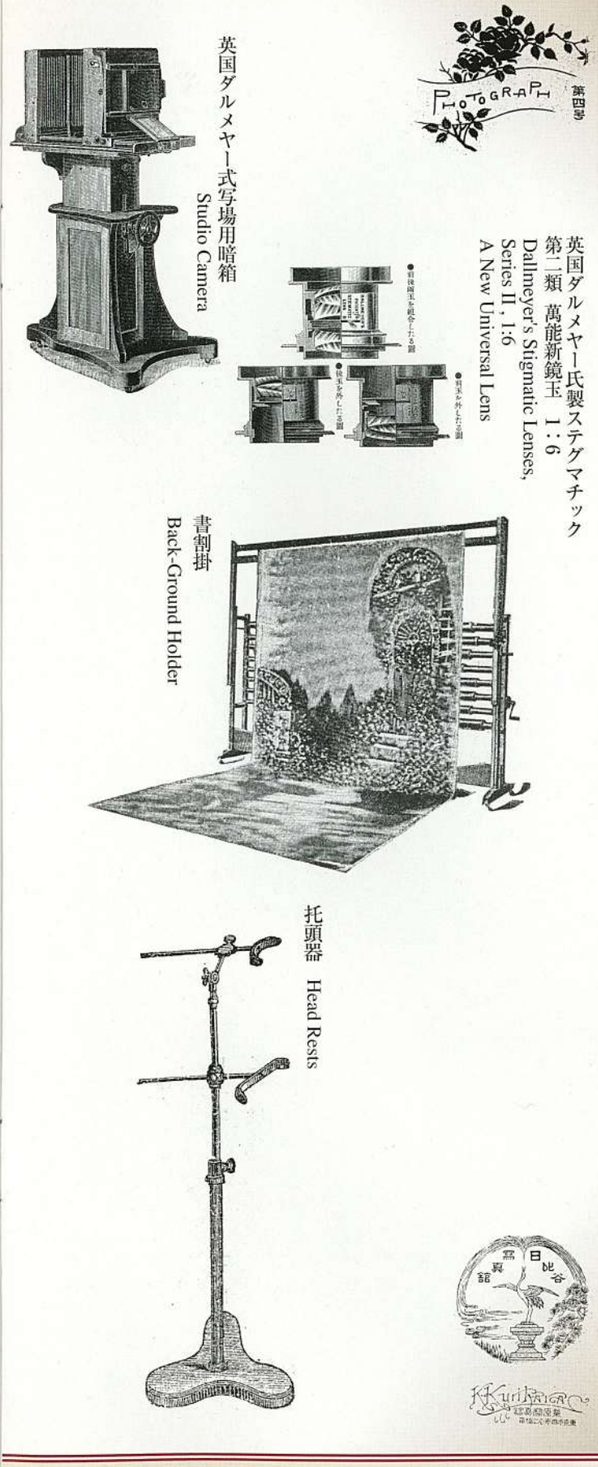
高田小熊写真館と小沢昭一村長

明治村の小沢昭一村長の父・哲男さんは大正六年頃からこの小熊写真館で修業されていました。そして度々写真館に遊びに来ていた和助さんの義妹と哲男さんが結婚され、誕生したのが小沢昭一村長です。小沢哲男さんが東京で写真館開業の際に、小熊写真館をモデルにされたといわれています。

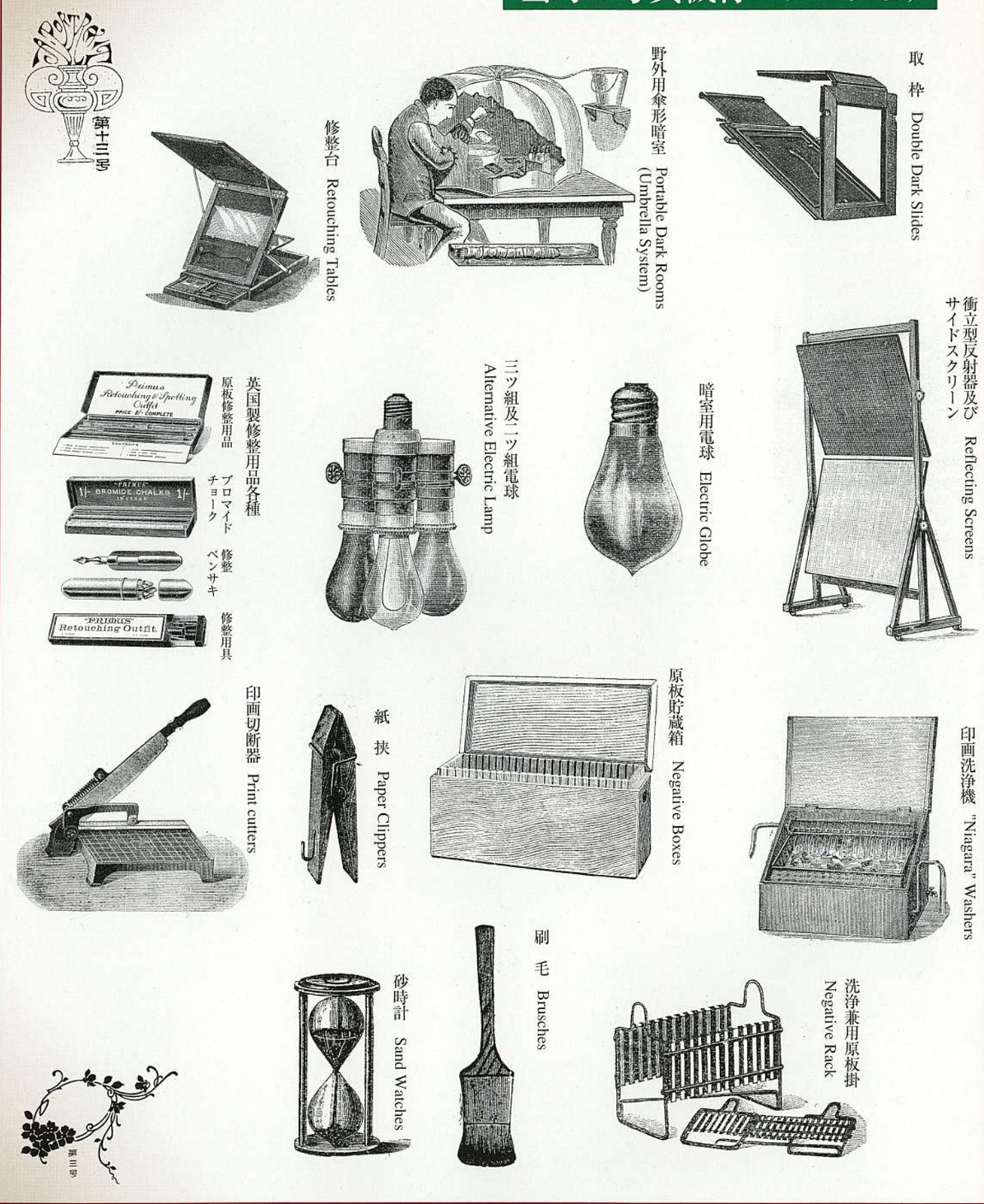
この機会に写真館の内部をじっくりご見学下さい。

※見学について詳しくは、7ページをご覧下さい。

当時の写真機材カタログより

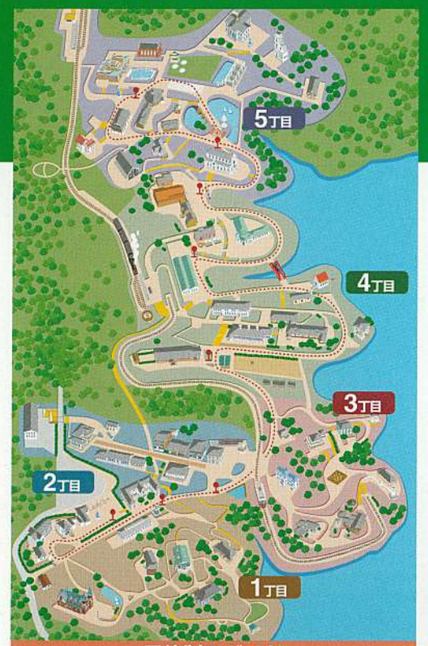


四隅の図柄は当時の写真台紙などにデザインされたもの



写真機械材料目録　浅沼商会　1912　　写真機械目録　小西本店　1914

多彩な各種 建物案内のご紹介



予約制のガイド

●予約制ガイドツアー

10名様以上の団体のお客様を対象としたボランティアガイドツアーです。ボランティアガイドとともに、貴重な建造物をもう一歩踏み込んで明治村を見学してみませんか？
所要時間は約1時間～1時間30分で、モデルコースもいろいろ取り揃えています。（ガイド料は無料、ただしボランティア交通費としてボランティア1名につき1,000円が必要となります）（申し込みは7日前までにお願いいたします）

●プレミアムガイドツアー

電動車を利用した、学芸スタッフによる詳しい案内付きで明治村を巡るガイドツアーです。
電動車を利用して村内を移動するため、天候に左右されることもなく、広い村内を楽々移動することができます。またお客様の目的に合わせたコース設定もおこなえ、限られた時間の中で広い村内を効率よく見学することができます。
（申し込みは3日前までにお願いいたします）
料金は 4名様まで10,000円、5名様12,000円、6名様14,000円。
入村料別、所要時間は1時間30分。

5丁目

ガイドツアー（所要時間約30分）
Aコース　出発時間／10：40　13：40
　　集合場所／帝国ホテル中央玄関（5丁目67番地）
Bコース　出発時間／11：30　14：30
　　集合場所／帝国ホテル中央玄関（5丁目67番地）

新設
建物内部ガイド **「高田小熊写真館」**（5丁目65番地）（所要時間約15分）
時間／11：00　11：30　13：00　13：30
応接室兼写真の受付の洋室から入っていただき2階の支度室、スタジオへ。現像のための1階の暗室など作業室をご案内します。

帝国ホテルガイド（5丁目67番地）
時間／10：20～11：50　13：20～14：50（所要時間約20分）
青い腕章を着けたボランティアガイドに声をおかけください。
土・日・祝のみ、上記のほかに定時ガイドがあります。
時間／10：10　11：30　13：10　14：30　集合場所／帝国ホテル中央玄関（5丁目67番地）

4丁目

ガイドツアー（所要時間約40分）
出発時間／10：40　13：10
集合場所／京都七條巡査派出所（2丁目23番地）

建物内部ガイド **「呉服座」**〈重要文化財〉（4丁目49番地）（所要時間約15分）
時間／11：00　11：20　11：40　13：00　13：20
13：40　14：00　14：20　14：40※　15：00※（※は土日祝のみ）
江戸時代以来の伝統建築の名残を留める大阪に建てられた芝居小屋。
普段は見ることのできない奈落などをご案内します。

機械館ガイド
鉄道寮新橋工場（機械館）（4丁目44番地）　（所要時間約30分）
時間／11：30　14：00
重要文化財に指定された機械2機を含む貴重な明治期の機械類の説明を行なっています。

3丁目

ガイドツアー（所要時間約40分）
出発時間／11:10　13:40
集合場所／京都七條巡査派出所（2丁目23番地）

建物内部ガイド **「西園寺公望別邸　坐漁荘」**（3丁目27番地）（所要時間約15分）
時間／11：00　11：20　11：40　13：00　13：20
13：40　14：00　14：20　14：40※　15：00※（※は土日祝のみ）
西園寺公望が政界を引退したのち、静岡の興津に建てた別邸。二階座敷の障子を開け放つと、遠い山並みを背景に入鹿池が見渡せます。

「神戸山手西洋人住居」（3丁目32番地）
時間／14：20～14：40

幸田家訪問 **幸田露伴住宅「蝸牛庵」**（3丁目26番地）
時間／10：10～12：00　13：00～14：50
蝸牛庵では、ボランティアガイドが幸田家の住人として、訪れたお客様をお招きし、ご案内します。

1丁目

ガイドツアー（所要時間約30分）
出発時間／10：00　11：00　13：30
集合場所／正門前ボランティアブース（1丁目1番地）

建物内部ガイド **「西郷従道邸」**〈重要文化財〉（1丁目8番地）（所要時間約15分）
時間／11：00　11：20　11：40　13：00
13：20　13：40　14：00　14：20
14：40※　15：00※（※は土日祝のみ）
西郷隆盛の弟である従道が東京上目黒に建設した本格的な接客用洋館。室内には明治時代の貴重な資料である家具、調度品が置かれ、椅子に座って明治の洋館の雰囲気を味わっていただく事ができます。

2丁目

ガイドツアー（所要時間約30分）
出発時間／10：30　13：00
集合場所／正門前ボランティアブース
（1丁目1番地）

建物内部ガイド **「東松家住宅」**〈重要文化財〉
（2丁目18番地）（所要時間約15分）
時間／11：00　11：20　11：40　13：00
13：20　13：40　14：00　14：20
14：40※　15：00※（※は土日祝のみ）
名古屋堀川沿いに建てられた商家。二階には露地にみたてた廊下に待合、茶室が設けられ、名古屋の商家の高尚の程を偲ばせる空間が広がっています。

季節の彩りを楽しむ
……明治村花暦
3月～5月

SLとウメ

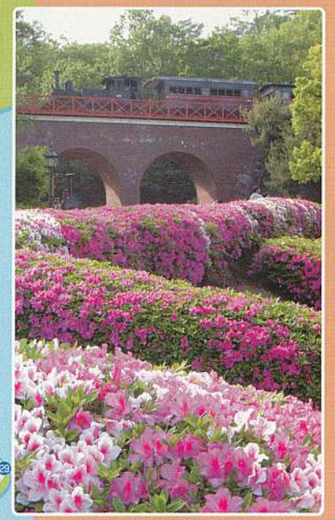
65 高田小熊写真館とユキヤナギ

13 三重県庁舎とレンギョウ

13 三重県庁舎とヒトツバタゴ

7 学習院長官舎とサクラ

8 西郷従道邸とサクラ


SLとツツジ

35 日本赤十字社中央病院病棟とハナショウブ

カタクリ

サクラのトンネル

明治村花暦

月	3月			4月			5月		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下
アセビ	■	■							
コバノミツバツツジ		■	■	■	■				
ソメイヨシノ			■	■	■				
ショウジョウバカマ			■	■					
カタクリ			■	■					
ボケ			■	■	■				
ヤマザクラ				■	■				
ツバキ				■	■				
コブシ				■	■				
モクレン				■	■				
レンギョウ				■	■				
ユキヤナギ				■	■				
ヤエザクラ					■	■	■		
ドウダンツツジ					■	■			
モチツツジ					■	■			
サツキツツジ					■	■			
アメリカハナミズキ						■	■		
ヒラドツツジ							■		
フジ							■	■	
ヒトツバタゴ							■		
ハナショウブ									■

※例年の開花時期です。気候などの条件により前後することがあります。

明治探険隊Ⅱ ～時間の迷宮～

期間：平成19年3月10日（土）～6月24日（日）
後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会

実体験型ロールプレイングゲーム「明治探険隊Ⅱ～時間の迷宮～」

“探険の書”を手掛りに、明治村内に隠された宝箱を探し出し、そこに書かれたキーワードから謎を解き明かすゲームです。
今回のテーマは“時間”。謎の3人の博士が隠したとされる宝のトリックがこの春動き出します。

INFORMATION

料金：●体験コース／小学生高学年向け　100円　●隊員コース／中・高校生、一般向け　300円　●隊長コース／一般、上級向け　500円
受付：ミュージアムショップ（正門）、SL東京駅売店（北口）

明治探険隊Ⅱ ファイナルゲーム【アドバンス・コース】

隊長コースを解き明かした者のみが最後の“探険の書”を手に入れることができ、このコースに挑戦できます。販売期間は6月1日～24日。1,000円（先着1,000冊限定）

美食探険隊（グルメ）

■歴史ある建物でお食事を「建物ガイド付き春のハイカラ午餐」〈予約制〉
普段はお食事をとる事のできない建物内で、春の季節感あふれるお食事をお楽しみください。学芸スタッフがお食事場所と隣接建物を特別にご案内いたします。

INFORMATION

食事場所：①西園寺公望別邸「坐漁荘」②学習院長官舎③西郷從道邸
期　　日：①3月23日・24日②3月30日・31日③4月6日・7日
時　　間：12時～13時20分頃（お食事後に隣接建物をご案内）
定　　員：①・②は20名　③は15名
料　　金：お一人様5,000円（入村料は別途必要）
申　　込：明治村ホームページか電話での事前予約（各日の5日前まで）

■明治時代に日本人が初めて食した食べ物を、当時のレシピで再現いたしました。新しい味「海老のコロツケー」がこの春に仲間入り。春限定美食（グルメ）もあり、食べ歩きで美味しい明治を探険してください。

- 食道楽のコロツケー（帝国ホテル前芝生広場、正門テラス）
- 食道楽のカレーぱん（札幌電話交換局前広場）
- デンキブラン（デンキブラン汐留バー）　・牛鍋（大井牛肉店）
- 明治の駅弁（明治村食堂）　・明治のチキンカレー（浪漫亭）

食道楽のコロツケー
（新発売　海老のコロッケー）

牛鍋

のりもの探険隊

明治村にある乗物に実際に乗って、観て、村内を探険してください。

京都市電

- 蒸気機関車12号・9号・三等客車〈動態展示〉
- 京都市電〈動態展示〉
- 明治天皇御料車〈鉄道記念物〉
- 昭憲皇太后御料車〈鉄道記念物〉
- 蒸気動車〈鉄道記念物〉
- 尾西鉄道蒸気機関車1号
- 儀装車（皇室儀装馬車）
- 乗合馬車
- 村営バス（ボンネット）
- オーディナリー型自転車

■明治村運行40周年記念「京都市電」車掌体験
明治村での京都市電運行開始40周年を記念して、運行開始日で明治村開村記念日でもある3月18日に車掌体験をおこないます。

INFORMATION

開催日：3月18日
対　象：小中学生及び保護者（同伴1名まで）
参加費：お一人様300円（入村料は別途必要）
申込み：明治村ホームページか電話での事前予約

■SLバックヤード探険隊
SLの往復乗車に加え、給水作業や車庫など普段は見られないSL運行の裏側を、スタッフが説明しながら分かりやすくご案内いたします。

INFORMATION

開催日：3月24日、4月14日、5月13日・27日、6月24日
対　象：小中学生及び保護者（同伴２名まで）
参加費：お一人様500円（入村料は別途必要）
申込み：明治村ホームページか電話での事前予約

明治村トリエンナーレ'07 第2回 芸能・芸術祭 春

“歴史的遺産を輝かせる、時代（とき）を超えた情熱と創造”をテーマに、3年に1度の文化の祭典「芸能・芸術祭」を3月10日～11月25日まで開催いたします。明治村の歴史ある建物や空間を利用し、プロ・アマ、ジャンルにとらわれない、情熱と創意に溢れた質の高い芸能・芸術を広く発表していただきます。

芸能・芸術祭オープニングイベント

小沢昭一村長講演会「小沢昭一的芸能のこころ」

日時：3月10日・13時～　場所：聖ザビエル天主堂
小沢昭一 明治村村長が来村いたします。芸能をテーマに語る楽しいひとときをお楽しみください。（見学無料）

芸能・芸術祭GW呉服座特別公演

藤山新太郎「手妻の世界」

国の無形文化財である「手妻」（水芸などの日本の伝統的奇術）の妙技を、国の重要文化財の芝居小屋「呉服座」で公演いたします。滅多に見られない素晴らしい芸をこの機会にお楽しみください。

INFORMATION

日時：5月3日～6日 ①14時30分～②18時30分～、（1日2回公演・全自由席）
出演：藤山新太郎＆東京イリュージョン
前売鑑賞券：800円〈高校生以上〉400円〈小中学生〉（入村料は別途必要）
当日鑑賞券：1,000円〈高校生以上〉500円〈小中学生〉（入村料は別途必要）
前売セット券（入村料＋鑑賞券）：2,000円〈大人〉1,000円〈小中学生〉
1,500円〈高校生・65歳以上〉
共催：中日新聞社、東海テレビ、東海ラジオ放送、財団法人明治村

企画展「麗らかなる錦絵」

期間：3月10日～6月24日　三重県庁舎1階 特別展示室

明治時代の世相を映した「錦絵」。錦絵は時代の移ろいを巧に描きこみ、人々にその変化を伝えると共に、四季折々の風情を鮮やかな彩りで表現した木版画です。今回の展示では、各所図とともに春をテーマとした錦絵をご覧いただき、明治時代の人々が愛でた「春」をお楽しみください。

ゴールデンウイークの明治村

花のナイター　　5月3日～6日
20時30分まで夜間延長開村（17時以降は入村料半額）
・建物・街並み・花のライトアップ
・イルミネーション京都市電・村営バス
・教会ライティングショー〈聖ザビエル天主堂〉
・花火競演　20時～〈帝国ホテル中央玄関前芝生広場〉

明治村茶会

と　き／平成19年4月21日（土）・22日（日）9時半から15時まで
　　＊受付は14時まで
ところ／博物館明治村
内　容／茶席三席・点心席・模擬店
参加費／15,000円（前売りのみ。明治村入村料込み）

坐漁荘・亦楽庵席　東京 五島美術館

五島美術館は東京急行株式会社元会長の五島慶太翁が蒐集された日本と東洋の古美術を基に、昭和三十五年　東京上野毛の閑静な住宅地に開設された美術館です。慶太翁は奈良時代の写経から古美術品の蒐集を始め、現在では「源氏物語絵巻」など国宝五件、重要文化財五十件を擁する日本有数のコレクションとして、美術愛好家の憧憬のまととなっています。慶太翁の眼で選びぬかれた名品の数々を明治の元勲西園寺公望の別邸「坐漁荘」でお楽しみ下さい。

学習院長官舎席　富山 富山市立佐藤記念美術館

佐藤記念美術館は、富山出身の実業家佐藤助九郎（助庵）氏の蒐集品を基に設立された美術館で、館内には自宅より「柳汀庵」（金森宗和好）・「助庵」の茶席や、「書院の間」などが移築されています。助庵翁は、漢詩・俳句・書画を嗜み、窯を築いて作陶の世界に遊ぶなど、心から茶湯を楽しみ、晩年は茶湯三昧に過ごしました。ちなみに「助庵」は師と仰いだ近代の数寄者・松永耳庵から贈られた号です。地域の茶道振興に尽力した助庵翁のお茶に対する熱い思いのこもった道具組をごゆっくりとお楽しみ下さい。

日本庭園・野点席　美濃 七代 加藤幸兵衛

初代　加藤幸兵衛が美濃市之倉に開窯し今日まで二百年以上の伝統を誇る幸兵衛窯。江戸城本丸、西御丸へ染付食器を納める御用窯となり、以降今日まで古典の技法を研究し、新たな造形を創出してきました。七代幸兵衛氏は先代が復元に成功したラスター彩はじめとするペルシアの技法を受け継ぎ、さらに発展させ独自の作風を展開して陶芸界に絶えず新風を吹き込んでいます。入鹿池を見下ろす風光明媚な日本庭園と七代幸兵衛氏の作品との取り合わせをお楽しみ下さい。

● お問い合わせは
明治村茶会事務局　電話（0568）67-0314
愛知県犬山市字内山一番地　博物館明治村内

レンガ通りの京の町家

●京都中井酒造（2丁目19番地）

二丁目レンガ通りにある**京都中井酒造**は、明治村の建物の中で最も古い時代のもののひとつです。京都中井酒造は元治元年（一八六四）に長州藩と会津・薩摩両藩が京都御所蛤御門で衝突した「禁門の変」の際にそれまでの建物が焼失した後、明治三年（一八七〇）に再建されました。明治といっても改元されて間もなくのことですから、江戸時代の京都の町屋の佇まいを残しているといっていいでしょう。その特徴は、屋根に緩いカーブを持たせた「むくり屋根」、入口から奥へと続く「通り土間」などいろいろありますが、ここでは「つし（厨子）二階」と「虫籠窓」（写真1）に注目してみたいと思います。

写真1　白漆喰が美しい虫籠窓

表通りから見た時、この建物は軒高が低く、平屋のように見えます。しかしここには、本格的な二階が作られなかった頃の古い形の二階「つし二階」（写真2）があります。「つし二階」は一般的に物置として使われることが多かったようですが、使用人の部屋が作られることもあり、京都中井酒造でも、物置と酒造り職人の蔵人（くらびと）の寝室に使用されていました。蔵人はこの部屋に入る時は階段を使わず、土間から梯子を使って昇り降りしていました。

写真2「つし二階」のある京都中井酒造の内部

虫籠窓は「蒸し子」とも書き、元々は木でできた窓の格子のことでした。虫籠や、セイロウ（蒸籠）の下に敷く蒸し子に似ていることからこの名がつけられたと考えられています。壁や窓を漆喰で仕上げると火事による延焼を防ぐことができたので、虫籠窓の格子は漆喰で塗り込めて仕上げられています。虫籠窓の内側は木製でスライドする格子板「無双」が添えられた無双窓になっていて全開にすると意外と明るく、当時の人々の工夫がうかがえます（写真3）。

京都中井酒造の全体的に一見質素に見える表構えは京都の町では隣近所ほぼ同じだったと言われています。京都の商人の気質として、出過ぎない、目立たない、がモットーとされており、そのためどの家も間口や軒の高さまで揃え、その結果町全体が統一された風景となりました。

ところで、この建物の隣の東松家住宅も壁は漆喰で塗られていますが、色は黒です。一般的に壁の漆喰の色は西日本が白、東日本が黒とも言われており、レンガ通りでは漆喰の色による地域差も楽しむことができます（写真4）。

明治時代は、江戸時代のさまざまな制約から解放され、民家の造りが急激に変化した時代といえます。京都中井酒造のような「つし二階」の形から本二階へ、更に東松家住宅のような本格的な三階建てへと、時間と場所を隔てて造られた二軒の建物を比較して眺めていただければ幸いです。

写真4　手前が東松家住宅、奥が京都中井酒造

写真3　虫籠窓内部の無双窓

光と影の競演

●東松家住宅（2丁目18番地）

重要文化財の**東松家住宅**は、片側に土間を配した「通り庭の町屋」形式を踏襲して増築されているため、土間は三階部分まで吹抜けています。また、度重なる増・改築により床面に段差ができるという難点を逆に活かし、変化に富んだ効果的な内部空間を創りだしています。

東松家住宅の茶室は土地の制約上、庭ではなく土間に面した二階に設けられています。さらに三階には京都の茶房を移したといわれる部屋もあります。生活の場に採り入れられた「茶の湯の空間」は、東松家住宅独特の内部空間と見事に融合し、開放感と遊び心に満ちたものになっています。茶室がなるべく奥深く位置するように動線が工夫されており、露地に見立てられた茶室への廊下は屈折して土間の上を走っています。東松家住宅の廊下は上部から欄間、外側に木格子を打ち付けた連子窓、腰無双窓を組み合わせたもので吹き抜けと隔てられています。土間の高窓からの光が白漆喰の壁に反射し、和らいだ明るさを奥へ伝え、欄間の「透かし」はそこを透る光に表情を与えています。利休は露地を「浮き世の外の道」と言ったと伝えられていますが、いわば露地は日常生活、世俗の世界との結界です。この廊下の連子窓を開け放つと一階の台所、店や女中部屋が丸見えになってしまいます。連子窓の障子は開閉という簡単な方法で、外部の景色や変化から隔絶した空間をつくる役割を果たしているのです。

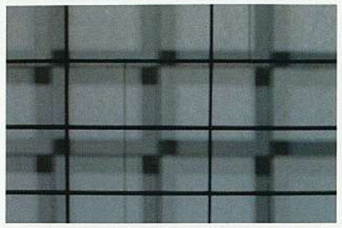


写真1　障子に映り込む千鳥格子

日中この廊下を通るとき、東松家住宅ならではの光が織りなす世界を体感できます。土間の高窓は当時、隣にあった東松家所有の二階建ての屋根の傾斜に合わせて造られています。左右の窓の高低差、廊下の屈折が光の入り方を変化させて木格子の陰影に濃淡ができ、障子には千鳥格子となって映り込みます（写真1）。また無双窓を僅かに開き光の量を絞り込むと、光沢のある床で白い光の筋があたかも木漏れ日の様に交差します（写真2）。

窓は必ずしも採光、通風、換気の役目ばかりでなく、「座敷の景色」にも活用されます。二階の廊下に沿って奥座敷に続く「次の間」に半円窓床があります。窓の内側には竹の両端を落とした割竹を組み入れた掛け障子が付けられ、そこに半月が浮かび上がります（写真3）。障子を透して入り込む明かりは人の心に物侘びた落ち着きを与えます。天候、時間帯、季節により光の入り方が異なるため、月の輪郭や建具の影がはっきりしたりぼやけたり変化します。半月が刻々と変わっていく様を味わうのも贅沢な時間の過ごし方といえます。障子により拡散された光は、室内全般を柔らかく照らしますが、昼光のない夜間においては、障子は壁の一部として人工照明光の反射面となります。電球の仄明かりが掛障子奥の砂壁をオレンジ色に輝かせます。それは半月というより満月、あるいは沈む前の夕日の輝きのようです（写真4）。この半円窓床は、室内意匠の中心的要素であり、床そのものを掛け物替わりとして鑑賞の対象とするものといえるのではないでしょうか。

窓を開けることについて色紙窓の創始者とされる織部はこう述べています。

数寄屋之窓多ク明ル心得之事　何レモ明リ取ルベキトノ事也　色紙窓明リノ為バカリニ非ス　座敷ノ景ニ成ル故也

すなわち格別に機能を考えたのではなく、むしろ「座敷の景」として工夫したことを織部は明らかにしています。色紙窓とは、点前座の勝手付きの壁に中心軸をずらして二段重ねに開けたもので、窓を配置した姿がさながら色紙を上下に張った形相に似ているのでこの名があります。東松家住宅では、三階中央の座敷と一段高くなった奥の部屋との間に色紙窓が開けられています。二つの部屋には約九〇センチメートルもの段差があります。色紙窓が目線よりかなり高い位置にあるため、雨戸を閉めた夜間は、隣室の電球の明かりを透かし、まるで壁に埋め込まれた間接照明の様に見えます（写真5）。

現在、東松家住宅の二階と三階は建物ガイドでのみご覧になれます。当時の名古屋商人の豊かな生活に思いをはせながら、先人の巧みな技と偶然が生んだ素晴らしい「光と影の競演」をご堪能下さい。

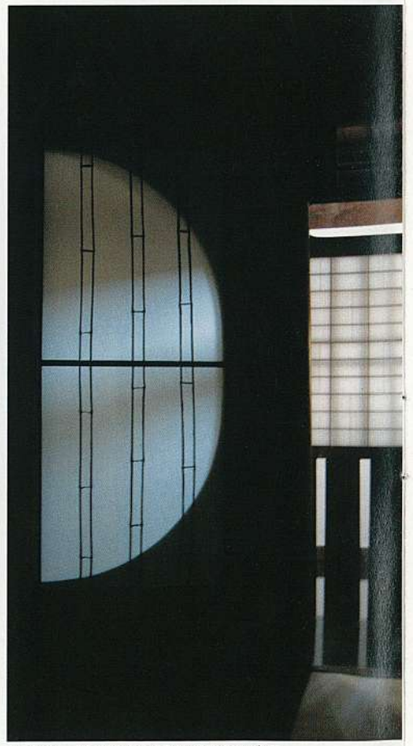


写真3　掛け障子に浮かび上がる半月

写真2　無双窓からの光

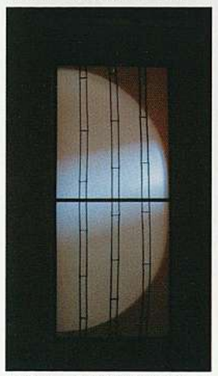


写真4　人工照明下での半円窓床

写真5　3階にある色紙窓

参考文献
・中村昌正「古典に学ぶ茶室の設計」建築知識
・林　雅子「障子の本」木耳社　ほか